



西多摩療育支援センター入所利用者の書初より

西多摩療育支援センターの入所者が、新年の思いを表現した作品です。手や体を支えてもらいながらも筆にたっぷり墨を付けて力強く書きました。生まれつきの種々の病気・転落などの事故や後天的な病気により、思い通りに顔貌を動かすこと、据わり直すことや、立つこと、隣の人に声を掛けることなどに努力が必要でした。

西多摩療育支援センターも開設して三年を迎えようとしています。この書初めを通して利用者の皆様の「望み」に向けての意欲がうかがえます。

現実として昨今の社会情勢は福祉に取組み私共にとりましては、誠に厳しい方向に進みつつあります。然しながら、ひるんではいられません。これからの施設は、障害を持つ方の複合したニーズに適切に対応していくことが求められます。立ちたいという願い、話したいと望む子供達に共感し、共に歩みつつ援助していきたいと願っております。



No.14 (平成19年)  
 社会福祉法人 鶴風会  
 東京小児療育病院 園  
 東みどり愛育育  
 西多摩療育支援センター  
 後援会  
 一連絡先—  
 東京都武蔵村山市学園4-10-1  
 電話 042(561)2521(代表) 〒208-0011  
 東京小児療育病院内  
 Eメール tcrh@kakufuh.com

特別支援教育と療育機関の連携

総括施設長 鈴木康之  
 障害児者の医療福祉の改革が進む一方で、その対象範囲も広がってきている。脳性麻痺を中心とする身体障害から重度重複障害、そしてさらに重度化した超重症児医療への発展があった。一方で、脳性麻痺児の減少と共に、自閉性障害や多動性障害(ADHD)等を含めた軽度発達障害といわれる障害が大きな社会的な問題になり、教育改革に発展した。

私も障害児医療施設は、早期発見・早期診断と取り組んできた結果、運動発達のみならず言語発達やそれに関連する障害に以前から関わってきた。障害児を早期からみてきた私どもにとって、その対応は必然であったと感じる。ここ十数年間、外来新患の約八十%は自閉症や多動性障害、学習障害や言語障害などの発達障害で、現在の外来通院中の患者数は六千人をくだらない。言語療法、作業療法、そして児童精神科的行動療法を中心

理念  
 私達は  
 障害児者の生命機能の維持  
 向上と生活援助のための誠実に  
 積極的に取り組み障害児者と  
 その家族を支援します

- 1頁 特別支援教育と療育機関の連携
- 2頁 かつて日本は貧しかった
- 3頁 国際婦人福祉協会より寄贈
- 4頁 東京小児療育病院に思うこと
- 5頁 平成十八年度バザー報告
- 6頁 障害児(者)地域療育等支援事業報告
- 7頁 後援会だより
- 8頁 ご寄付者名簿

に、実際の指導を展開してきた。教育改革の前に療育的実践ができていたのである。これらの関連する発達障害の場合、医療の守備範囲だけでなく、障害児教育や福祉分野との連携がより深く求められる教育分野では、従来の「特殊教育」という言葉がなくなり、「特別支援教育」という世界が開けた。文部科学省もその対象数が膨大なることを認識せざるを得なくなつて、養護学校・特殊学校・在宅訪問学級という構成から、特別支援学校(養護学校)、通級学級、特別支援学校(心身障害学級)、特別支援教諭の巡回指導などの構成に組織変容を進めてきた。すべての通常学校には支援教育担当のコーディネーターが配置され研修が進んでいる。さらに就学前の療育・幼児保育・教育機関からの連携を求めてシステムが変えられつつある。しかもそれを生涯にわたる地域支援計画につなげるシステム化が進んでいる。

障害児の世界が、教育改革という変化の中で大きく変わろうとしている。一方で、障害児医療は医療制度・保険診療体

制の中で、相次ぐ撤退を迫られ、現実の二  
ードにすら対応を中断せざるを得ない状況  
が生まれている。今までの以上に教育界を支  
援し、発展させ、その結果として障害児者  
の世界を豊かにすることが求められている。

しかし一部医療関係者の理解が得られてい  
ないのは残念である。医療とか教育の範囲  
を決めることではなく、「療育」という制  
度をどう改革するかが問題なのだから。

障害児療育は、医療をベースに発展して  
きた。さらに教育はそれと連携しながら総  
合的指導に関わってきた。今も教育的アプ  
ローチ、医療的な療育アプローチ、そして  
福祉的な支援と、さまざまに発展している。  
しかしそれぞれがすべて充実しているわけ  
ではない。まだまだ相互に補わなければな  
らない範囲も多い。医療的に治療教育が必  
要な場合、教育的療法が心理的にも必要と  
される場合も多い。

我々が求めてきたのは、医療をすること  
ではない。地域で障害児者を支えることで  
ある。必要とされる支援を療育という形で  
提供し、支えることである。幸い、我々の  
施設では、東京学芸大学関係者その他の参  
加を得て、医療的・教育的療育を築いてこ  
れた。今回、さらに研究補助を受けて、保  
育・教育支援室の整備が進んでいる。夜間  
には学童保育にも使えよう期待している。  
今は医療と教育の連携で何ができるか、ど  
うすればよりよく子供たちを育成できるか、  
療育の質の向上を模索する段階である。今  
後も医療・教育がより一体となって、障害  
児の地域育成が進むことを期待している。

### ——<sup>あたまゆうき</sup>与勇輝の人形展から—— かつて日本は貧しかった

社会福祉法人鶴風会

理事長 五島瑳智子

かつて日本は貧しかった。昭和になっ  
てからもテレビドラマ「おしん」のよう  
に、子供を学校に行かせることもできず  
奉公に行かせたり、農村では不作の年に  
娘を売ったりすることもあった。今のよ  
うに電気冷蔵庫も洗濯機もなく、まして  
電子レンジ、テレビ、パソコンなど想像  
もできない時代。今は逆にそれらのない  
家庭を想像することはできない。乳幼児  
死亡率は高かったが、子供の数は多く、  
兄弟姉妹が数人以上の家庭も珍しくはな  
く、小学校の同クラスには最高十三人  
(双生児を含む) 兄弟という友人もいた。  
子供達は家事を手伝い、子守や勉強を見  
てやるなどして親を助けた。幼い妹を背  
負って小学校に通う児童もあった。背中  
の子が泣き始めると、そっと教室の外に  
出て泣き止むまで、体をゆすりながらな  
だめていた。

昨年東京で開かれた与勇輝氏の人形展  
には写真のように炊事を手伝う少女、幼  
児を背負って遊ぶ少年、夜なべに針仕事  
をする母親などが、人形とは思えないリ  
アルな姿で、見る者の郷愁を誘い、入場  
に二時間も待たなければならなかった。  
この人形展は、パリでも好評を博したと  
いう。どの先進国も貧困は経験してい

るし、まして途上国では今も多くの貧困  
層を抱えている。これらの人形には血の  
通っているような暖かさがあり、それが  
国境も文化の違いも越えて共感を得たの  
だと思ふ。

懐かしさを感じつつも、だから昔はよ  
かったなどと言うつもりはない。昭和は  
戦争に明け暮れた時代だった。なりふり  
かまわず、自分達の食糧確保のため働か  
なければならなかった。まして障害児・  
者は、  
世間に  
も家族  
にさえ  
肩身の  
狭い思  
いをし  
ていた  
し、車  
椅子も  
普及し  
ていな



かったから、外出もままならなかった。

私共の鶴風会はまた社会の理解も認識も  
希薄な、冷たい偏見の中でこの仕事を始  
めた。戦前女性は選挙権もなく、いくら  
優秀でも大学には入れなかった。子供の  
世界にも朝鮮人や中国人への差別はあっ  
た。弱者から言えば敗戦(一九四五年)

は人権回復の転機といえる。しかし一方  
貧しかったあの頃、小学校に欠食児童が  
いても、差別や死に追いやるほどのいじ  
めはなかった。給食のない時代、欠食児

童だけに供された給食も土曜はなかった  
から、母はクラスに一人いたその子の分  
と二個のお弁当を持たせてくれた。小学  
校では先生がよくできる子をできない子  
と席を並ばせ、勉強を手伝った。一クラ  
ス五十人の児童がいたから先生も大変だ  
ったと思う。生徒も放課後プリントのガ  
リ版刷りを手伝った。強い子は弱い子を  
かばい、助け合うことを日常生活の中で  
親からも先生からも教えられ実践してい  
た。

便利さと豊かさは比例し  
ない

く  
た  
の  
餉  
タ  
人  
て  
するIT革命の中で世界は狭くなり、便  
利さは増したが、それを悪用する新たな  
犯罪が増えた。文明の機器を人間の悪の  
部分を増幅させるために使う者が増え、  
人間本来の美德は失われ想像力は枯渇し  
ていった。

一月二十三日文科省は給食日二十二億  
円未納と発表した。車を買ってもブラン  
ド品を身につけても子供の給食費を払わ  
ない親が増えている。若しかして本当に  
えない家庭も増えているのかも知れない。

豊かさを心の豊かさに

二〇〇六年十二月五日、国連は「世界の個人の富の状況」の調査結果を発表した。日本は一人当たりでは米国、欧州、産油国などを上回って世界でもっとも豊かな国だといっているのである。果たして日本は本当に豊かな国といえるのだろうか。

十二歳の少年達が遊ぶ金欲しさに人を殺し、親子も友人も互いにだましたり殺したり、乳幼児の我が子に食を与えなかつたり虐待する親たちが増える国は、決して豊かといえない。国連は物質や金銭的な豊かさでなく、人の心の豊かさを調査して欲しい(至難なことには違いないが)。

若さと引き替えに魂を悪魔メフィストフェレスに売り渡したファウストにならないように、金銭のために良心を売り渡さないために失われていく人の暖かい心、邪悪さに立ち向かう勇気を取り戻さなければ日本は美しい国になれない。

エンゲル係数：生計費に占める食費の割合。この係数が高いほど生活水準は低い。

与輝(あたえゆうき) (一九三七)

布の彫刻家・人形に命を吹き込む作家。人形の帽子やわらじ、植物の葉っぱに至るまで、全て手作り、制作期間は1体3〜4週間。与さんの作品は、河口湖ミュージアムの常設展で見ることが出来ます。

国際婦人福祉協会(—LB S)より脳波計に搭載するデジタルカメラセットの寄贈

社会福祉法人 鶴風会

常務理事 長岡常雄

平成十八年六月六日、国際婦人福祉協会主催の資金援助贈呈式があり、当日は五島理事長と共にカナダ大使館の贈呈式に出席し目録を頂きました。

私どもの病院では年間千件を超える脳波検査をおこなっていますが、てんかんの診断治療には、脳波検査と併に発作型の診察が重要です。そのため発作型を的確に診断するためには患者さんの状態をビデオカメラで同時撮影しながら行う脳波検査が有力な手段となります。

今回ご寄贈いただいたデジタルカメラセットはその目的のためのもので、同機器は八月から可動しております。



贈呈式のようす

なお、国際婦人福祉協会は一九五三年に設立された各種の民間福祉施設を援助するための奉仕団体であり、私どもの法人に対して、平成三年には患者・職員送迎用マイクロバス、平成七年 人工呼吸器一台、平成十年 給食用配膳車五台等の寄贈をしていただいております。あらためて厚くお礼を申し上げます。

通学用マイクロバス更新に東京馬主協会の助成金

平成十八年十一月十九日(日)、社団法人東京馬主協会が主催する、平成十八年度社会福祉施設助成金目録の贈呈式が行われ、当法人から五島瑛智子理事長が出席しました。会場は東京競馬場のウィナーズサークルを予定されていたが、当日は雨天のため、協会の大会議室で行われました。今回助成対象は四十団体で、総額約一億円が配分されたとのことです。当法人には「通学用マイクロバス」整備に、五百七十九万円の助成金をいただき、目録贈呈後に参加団体を代表して、五島理事長が御礼のご挨拶をいたしました。車両改造を終え、年度末には納車されます。(石井昌之 記)

学童保育始まる

予てより職員から希望の出ている学童保育を開始しました。

当院ではすでに、0歳から就学前の子ども対象の保育は、二十四時間態勢で行っておりますが、小学生を対象とした学童保育については人員や場所のこともあり、実施することができませんでした。

現在、公立の学童保育所は、共働きの増加や、子どもを巻き込む犯罪の多発に伴い、入所希望者が急増し、待機児童が多くなっていると聞きます。一年生はなんとか入れても、三年生位になると入れなくなる子も増えていくと聞きました。

当院の職員の子ども同様で、職員が安心して勤務できるようにするために、学童保育の開設を急がなくてはなりませんでした。

院長の「やるぞ!」と言う強いリーダーシップの下、八代看護係長、石井経理係、看護部長室からは秋元が参加し、佐々木保育主任や他の保育士の協力を得て話を進めていきました。

時間帯は、朝七時から夜八時までとし、早出、日勤、遅出の勤務者が利用できるようにしました。場所は看護宿舎一階、院内託児室の隣一〇三号室を使い九月九日(土)の日勤帯から開始となりました。試行ということで、看護師の子どものみを対象に、現在まで五人が利用しています。主に、土・日・祝日の利用が多く、

平日の利用はあまりありません。学校が終わってからの送迎ができないのが理由と考えられます。

学童保育をきっかけに、子どもが心配で就業を諦めている潜在看護師の再就職のきっかけになればと期待しています。学童保育室を開設して三ヶ月、月の利用回数は十日前後ですが、お隣の託児室の子ども達との交流もあり、優しいお兄ちゃんお姉ちゃんぶりを発揮してくれています。今後の課題としては、

- ① 準夜など夜勤帯の開設
  - ② 親が勤務中の送迎
  - ③ 対象を他職種まで広げる
- この三項目について検討していきたいと考えています。

(看護部長 秋元美知子 記)



お兄ちゃん(人形展より)

### 創立当時から理事 本明登志子先生の米寿を祝う

評議員 小川昭子

平成十九年一月二十一日、医局の新年会において、今年特別に本明登志子先生の米寿のお祝いをいたしました。

本明理事は旧帝国女子医専の卒業生が、第一期生の龍知恵子先生を中心として昭和三十九年、この村山の地に社会福祉法人鶴風会東京小児療育病院を開設するにあたり、その計画準備(昭和三十六年頃)から最若年の理事として参画され、有志の方々と共に資金を出し合い、以来医務部長として、また三代目理事長として、施設と共に四十二年間を通して、開設前からこれまでの鶴風会を見守ってこられた唯一の方となりました。

開設時から今日まで、本事業は幾度も危機に見舞われ職員の給与すら満足に支払えない時期もあり、当初の役員も、借金を背負った事業から次々と離脱する中、最も辛い状況を引き継いで、強い意思と行動でこの事業を支え続けてこられました。当初の計画であった研究所を現実の状況に即して閉鎖し、土地の一部を東京都に譲渡し、建築時の借金の始末をつけられた後、倉島先生に理事長を譲りましたが、その後も理事、および後援会の一員として、本事業への協力を惜しまず、理事長を助けてこられました。

米寿を迎えてなお頭脳明晰な先生は、現在の五島理事長を支え、後援会の会計を引き受けて下さるなど肅々と陰の仕事をされて少しも誇るところがありません。お祝いの会も、あらかじめお知らせすれば、おこたわりになるとわかっていたので、ご本人

には当日までお話しませんでした。お祝いの花束と共に、桑原章吾後援会長からおねざらいとお祝いの言葉が述べられ、お祝いとして渡部せつ子氏(二期会・メゾソプラノ)、中川賢二氏(ピアノ)によるミニコンサートをプレゼントいたしました。本明先生と共に若かりし時代を過ごした方々には懐かしい歌の数々が披露され、最後に全員で「花」(滝廉太郎・作)を合唱しました。先生のご挨拶も謙虚なお人柄と年齢を感じさせない知的で暖かいお話ぶりに、あらためて感じ入りました。先生のご健康を祈り、我々のお手本として今後もご指導いただけることを願っております。

### 東京小児療育病院に思うこと

非常勤医師 岡田如弘



現在、私は大学院に通いながら非常勤の医師として週二回ほど、こちらの病院でお世話になっています。

二十五年ほど前、やはり私の父も都立神経研究所に勤める傍ら、当直医として小児病院に勤務し、私達家族は病院内の職員寮に住んでおりました。当時はアスファルトの駐車場もなく、周囲は緑に囲まれており、病院の建物も大分小さかったと記憶しています。ただ、背が高く薄橙色をした鶴風会の塔と駐車場の枝垂桜は昔と変わらず、私にとってはちよつとした驚きでした。

村山幼稚園を経て武蔵村山第六小学校(今の雷塚小学校)に入学し、二年生までこちらで過ごしましたが、今にして思えばいろいろないたずらをしましたものです。病院内でかくれんぼをしたり、落ちていた尿瓶にか

ブトムシを入れて集めたり、お医者さんや看護師さんのお部屋に遊びにいたり、幼い私にとっては病院の中で医療者や患者さん達と接するのが日常の一部だったような気がします。

また、小学校では脳性麻痺や脳腫瘍の子供さん達が私達と同じように授業を受けておりましたし、養護学校の子供達とも多くの交流がありました。皆が助け合つてひとつのコミュニケーションとして過ごしていたように思います。

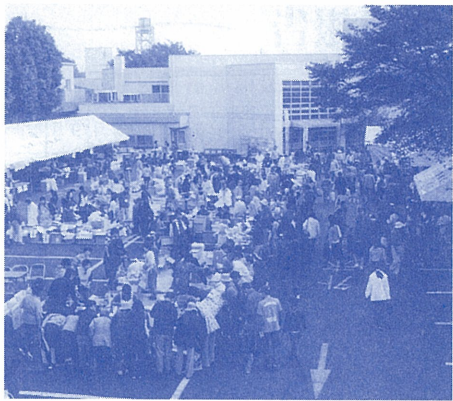
私が幼稚園の年長の時、悲しい出来事がありました。私の一番上の兄が小児喘息で亡くなったのです。発作が出るたびにしんどそうにしていたのを今でも覚えておりますし、「どうして自分だけこんなに辛いのか」と母に洩らしていた言葉を忘れることができません。

私が医師を志したのには、そのような経験が背景にあるのだと思います。大学を卒業し、私は一般内科と神経内科を専攻しました。

今また、この病院でお世話になるにあつて、自分の経験が少しでも皆様のお役に立てればと思えますし、患者様やご家族様方に昔と変わらぬ気持ちで接していくことができると考えています。



25 年 前



大盛況の会場

平成十八年度

バザー報告

先般、施設全面改築借入金返済と新たな療育機器の充実を目的としたバザーを計画しご協力をお願い申し上げましたところ早速にお品物の御寄贈を賜りましたことを心から厚く御礼申し上げます。お陰様で、多くの皆様からの御協賛をいただき十月二十九日にバザーを開催いたしました。

当日は天候にも恵まれ多数のお客様にお越しいただき盛会のうちに終了することができ、ご寄付を合わせ六百万円を超える収益となりました。

経済情勢の厳しいなか、ご支援賜りました皆様に深く感謝申し上げます。この収益金は、当初の目的にそって借入金の返済等に充てさせていただきますことといたしましたので、ご了承下さいますようお願い申し上げます。

バザー委員会

バザーご寄贈者ご芳名  
平成十八年九月〜平成十八年十二月  
(五十音順・敬称略)

- 青野志津江・青淵 幸恵・秋本 桂司
- 秋元千栄子・秋本 浩代・浅岡 久子
- 荒畑 仲春・飯田 順一・飯塚 早紀
- 石井 正行・石井 義男・石栗よし子
- 石田 政幸・石田みどり・石丸 正平
- 板橋 保・市川 裕子・伊東 明美
- 伊藤 一成・伊藤 治男・伊藤 裕之
- 今井 久吉・岩崎 直弥・岩瀬 京子
- 岩淵留美子・宇佐美寿一・白井 潔夫
- 内田 朋・江川 政則・榎本 茂夫
- 榎本みつ枝・榎本 義子・海老原明次
- 大江 容子・大川由美子・太田 百代
- 大谷 達之・大館 清・大貫 淳
- 大橋 伸夫・大橋 義孝・大場 吉延
- 岡野 兼大・岡松 眞二・小川 昭子
- 小川 慶子・奥井 誠次・奥田 輝雄
- 奥野信太郎・小野澤美枝子・小野寺昭子
- 小畑 恵子・尾又 勝廣・笠原喜久江
- 勝又登美雄・加藤奈津子・加藤 裕
- 上岡 謙夫・神谷 節子・鴨池 明美
- 茅根 理恵・狩野 三郎・川口 照代
- 川田 泰寛・神田 明・菊地 一江
- 菊本 美雪・北村 忠治・絹笠 誠也
- 木下 公男・木村 三郎・木村 拓郎
- 栗原 寿枝・小泉 久幸・甲原 貢
- 児島 晃・小寺 天馬・斉藤 重子
- 坂入 正樹・佐々木絹子・佐々木優子
- 佐藤 宣・佐藤 健司・佐藤 小澄
- 佐藤 ち江・佐藤 芳子・茂野 幸子
- 渋谷 由紀・島田 敏雄・志水 達雄
- 清水美都江・下河辺祐子・白石 倭雄
- 新藤 あや・菅谷 紘子・鈴木満寿枝
- 鈴木 正敬・鈴木 一三・鈴木 真紀
- 関口 義明・関原 生子・高木 一行
- 高橋健次郎・高橋千代美・高橋 尚登
- 高丸 洋子・田賀真知子・竹中玖美子

- 竹鼻 恵子・田項家幸子・田代 勝三
- 立川 裕子・田中 利一・田中隆一郎
- 谷 正志・谷藤 力童・塚崎 佳子
- 鶴井 剛・寺辻 英恵・寺本 純子
- 戸辺 房枝・中里 厚・中里 馨
- 中里 茂・中里 宗樹・中村 圓平
- 中村 恒子・中村 智子・長崎 晶子
- 長嶋 啓子・長田 栄子・長田 吉之
- 西崎 孝之・二島 里子・西村 実
- 二村恵美子・根岸 靖子・根岸 雪子
- 野沢 良美・野見山捷昭・野村 武弘
- 橋詰 久男・波多野利昭・浜野 雅壮
- 早瀬川 昌・原 迪子・原田 恭子
- 春山 清子・平井ニシ子・平井 祐太
- 平岩扶美子・平沢 文子・比留間富子
- 福田 静子・福地金四郎・藤代 隆雄
- 古川 竜男・堀内 明子・曲尾 民子
- 増田 英男・松岡 典子・三浦 栄一
- 松原 美保・松山 秀夫・松島 英乃
- 水野 静男・宮田 昭子・宮本 栄一
- 面田 眞和・本明登志子・盛 信一
- 森 美由紀・守田 正三・八木 成子
- 山岸 梅子・山崎あけみ・山崎 房子
- 山下 展男・山田 稔子・山本 公市
- 山本 正也・吉岡 直也・吉川 芳登
- 渡辺きよ子・渡辺 秀光・渡辺 實子
- 和田トシエ

バザーご寄付者ご芳名(個人・企業・団体)  
平成十八年九月〜平成十八年十二月  
(五十音順・敬称略)

- 高橋 尚登・奥井雄一郎・加藤 恵美
- 加藤 茂・海老原明次・関原 生子
- 関口 義明・宮崎 敏子・三浦百合子
- 山崎恵美子・山村 吉司・守田 洋
- 小嶋 肇・小林トミ子・上岡 謙夫
- 森田 英雄・西島 忠男・西堀 清六
- 斉藤 真・前畑 安宏・大谷 友則
- 大塚 淳子・渡邊 高志・飯田 新一

- 本明 寛・立川 裕子・鈴木 トキ
- 鈴木 英司・鈴木 美帆・齊藤 茂秋
- アンデス(株)・オオサキメディアカル(株)
- オムロン労働組合 東京支部
- キーコーヒー(株)・コニシ(株)
- サンヨー食品販売(株)
- シルバーメッキ工業(株)
- すげのや昭後援会あたらしい松の会 事務所
- ツムライフサイエンス(株)
- ナガイの白衣 立川出張所
- ニユートリー(株)
- ハウスウエルネスフーズ(株)
- ビーンスターク・スノー(株)
- フオスター運輸(株)・ヘルシーフード(株)
- 一富士ケータリング(株)
- 奥森電気管理事務所
- (株)アペックス・(株)エクセル・サービス
- (株)クルニコ・(株)ジャパックス・(株)ツムラ
- (株)ビスビー 生活科学研究所
- (株)フジミ・(株)ヤマダ・(株)リンレイ
- (株)一富士・(株)幸和義肢研究所
- (株)増田禎司商店・(株)太陽モップ
- 献血供給事業団 立川支所
- 国際ソロプチミスト東京一葉
- 国立厨房サービス(株)
- 真如苑
- 森永乳業(株) 東京多摩工場
- 石塚硝子(株)・多摩ヤクルト販売(株)
- 第一屋製パン(株) 小平工場
- 東京コカ・コーラ・ボトリング
- 東京医療クリーン事業協同組合
- 東和防災工業(株)・南観光交通(株)
- 日新製糖(株)・柏木(株)・不二薬品(株)
- 富士リネンサプライ(株)
- 毎日新聞 下北沢販売所
- (有)タケナカ・(有)トラストデント
- (有)ブルーフ・(有)森永牛乳 小平販売所
- (有)清水商店・(有)地球堂
- 立川酸素(株)・和光堂(株)

# 障害児(者)地域療育等支援事業報告

## 在宅支援外来療育等指導事業

延べ対象児(者)	4月	5月	6月	7月	8月	9月	総計
身体障害児							
- 肢体不自由							
- 視覚障害							
- 聴覚障害							
- 内部障害							
知的障害児(者)		1					1
重複障害(重心は除く)							
重症心身障害児(者)		2					2
計		3					3

## 在宅支援訪問療育等指導事業

延べ対象児(者)	4月	5月	6月	7月	8月	9月	総計
身体障害児		1		1			2
- 肢体不自由		1		1			2
- 視覚障害							
- 聴覚障害							
- 内部障害							
知的障害児(者)		1	1				2
重複障害(重心は除く)							
重症心身障害児(者)	1			1	2	1	5
計	1	2	1	2	2	1	9

## 施設支援一般指導事業 (延べ件数)

支援先	4月	5月	6月	7月	8月	9月	総計
保育園等	10	8	12	5	4	10	49
幼稚園等	6	4	5	1	1	6	23
学校・児童クラブ等	2	1				2	5
授産施設等							
身障センター等		1					1
知的障害施設		1					1
その他				1			1
計	18	15	17	7	5	18	80

延べ従事職員	4月	5月	6月	7月	8月	9月	総計
医師		1					1
看護師							
理学療法士		1					1
作業療法士		1					1
言語聴覚士		1					1
計		4					4

延べ従事職員	4月	5月	6月	7月	8月	9月	総計
医師							
看護師		1			1		2
理学療法士	1			2	1	1	5
作業療法士		2	1				3
計	1	3	1	2	2	1	5

延べ従事職員	4月	5月	6月	7月	8月	9月	総計
心理士	4	7	5	7	4	4	31
PT	3	4	1	1	3	3	15
OT	8	4	6	2	1	8	29
ST	2	2	11			2	17
医師	5	4	5	1		5	20
計	22	21	28	11	8	22	112

障害児・者本人やその家族・関係施設の職員など当院においていただき、相談・指導・助言を行います。年間計画13件です。医療保険を使わない外来療育相談ですが、伸び悩んでいます。第1ないし第3土曜日の午後に設定しています。

障害児・者本人やその家族に対して自宅などに訪問して生活上の悩みの相談・指導・助言を行います。今年度計画22件

保育園・幼稚園・学校・通所施設等の職員に対し、対象児・者に関わる助言等を行います。今年度計画100件(補正として135件に)

## ～ 試合結果 ～

- 優勝 島田療育センター
- 準優勝 緑成会整育園
- 3位 東大和療育センター
- 4位 秋津療育会
- 5位 鶴風会

(石井昌之 記)

<http://www.ikz.jp/hp/kakufuh/index.html>

また、この大会へ参加するために様々な方面からご支援を頂き有り難うございました。新たに野球部のホームページを立ち上げました、ぜひご覧下さい。

「来年は優勝！」を合い言葉に、職員間の交流を深めました。

前回の雪辱を晴らすべく、二月より練習や練習試合を重ね、大会直前には新ユニフォームが届き、意気揚々とグラウンドに到着しましたが...

## 「野球大会に参加して」

十月十三日(金) 都立清瀬グラウンドにて、東京都内の重症心身障害児(者)施設職員交流野球大会に職場の代表として、十八名が参加できました。



鶴風会 野球部員



ナイスバッティング!!



社会福祉法人 鶴風会  
後援会 だより

郷愁の東京小児療育病院  
訪問記

生方雪子

三十余年の昔、拙い絵画「瞳」・・・母と幼児を描いた百号油彩を子供さん達に生命の灯がより強く燃え上がる縁になつて欲しいという思いから寄贈させていただいた。その頃から長年の願望であった東京小児療育病院訪問が叶つた平成十七年十一月二十七日、日本女医会千葉支部の生涯教育の一環として十余名の先生方のご参加を得て、秋葉則子支部長のご意向と会員の先生方のご協力により実現した。

当日は長岡総施設長、事務局長、秋元看護部長が日曜出勤で院内をご案内下さつた。アスペルガー症や自閉症、高次機能障害についてこれらは軽度に入り外来受診というお話に驚いた。入所の患者さんは高度障害と闘っていることを知り、お世話下さる先生、職員の皆様のご努力をひしひしと感じた。院内のベットが真白ではなく家庭のように可愛らしい子供柄の品で彩られ、恰も幼稚園のお昼寝室のよう。次いで百にも近い経管栄養セットの整備される場では驚きをかくせな

りかけていた。声なき語りに応える作品を贈りたいと宿題を頂いて私なりの療育病院への半日が終わった。  
(医師・耳鼻科)

後援会の皆様へ

日頃のご協力に感謝！

社会福祉法人鶴風会  
理事長 五島瑳智子

社会福祉法人鶴風会の事業は、常に多くの方々のご理解とご援助をいただいております。創設当時は専門領域を担当できる医療者も少なく、療育の内容の向上を切望しながら、運営もきびしかったため開設時の借金に追われるありさまでした。おかげさまで今は、着任以来、指導的役割を果たしてこられた鈴木康之先生を中心とした優れた医師達と、医療従事者の方々が施設理念に基づいて日夜精励し療育の向上につとめており、本事業については関係領域からも高く評価されています。

四十余年の間に、公私共に数えきれない方々から、有形、無形のご厚志やご寄付を頂戴いたしました。創設当時の役員はすでに故人となられた方もあります。後援会にはその当時から長年にわたりご援助下さっている方もあり、本当に有難く心から感謝申し上げます。後援会の方々からは楽器や絵画などもご寄贈いただき療育に有効に使わせていただいております。また毎年の行事であるバザーや

チャリティコンサートなどにも多くの皆様のご参加をいただいております。創立四十三年目となった本施設は、度々修理をしてきましたが建物も古くなり今年、築三十年余りの看護宿舎が、一度改修したものの雨漏りなどの破損が著しく、居室には不適當となつたため、後援会からの寄付金も使わせていただき急遽内装だけを整備することにいたしました。これからもインフラの整備は順を追って実施しつつ、災害対策も考えていかねばならないと思っております。後援会の皆様に重ねて感謝いたしますと共に今後のご支援をお願い申し上げます。

ごあんない

チャリティコンサート  
～オルフェの会～  
とき：平成19年12月2日(日)

チャリティバザー  
とき：平成19年10月予定

鶴風会後援会へご寄付者ご芳名  
平成十八年九月〜平成十八年十二月  
267名(五十音順・敬称略)

- 青木 継稔・青木りう子・朝川 孝幸  
浅島 裕雄・浅見 薫子・足高 毅  
阿部 雅章・五十嵐いづ子・五十嵐良典  
池田喜久子・井澤 正博・石井久仁子  
石北 寿子・石田 敬子・石田 友希  
石田 秀子・板谷 英毅・伊藤 治男  
伊藤 文子・伊藤 圭子・井上 瑞穂  
井上 礼子・井上 康子・猪俣賢一郎  
今井まつ江・今崎 正生・今西 昶子  
岩崎 直弥・岩瀬 七重・上田 一夫  
上野 洋子・鶴川美登里・内 孝  
内ヶ崎仁子・内田 耕・白井 重三  
梅田 嘉明・梅原 公江・江口 環禧  
海老原明次・大木 伸子・大竹 喬二  
大橋 和男・大山 みつ・岡田 研吉  
奥山 綏夫・忍足美代子・尾山 多恵  
小山田妙子・柿添 瓊子・葛西まゆみ  
鹿島田忠史・柘原 宏久・加藤 濟仁  
加藤 光子・加藤 葉子・門屋 数子  
金森 勝士・金子 晴生・金子クニ子  
金田 律子・釜泡 登志・神尾 拓郎  
神尾 由紀・神山 悠子・河津 緑  
川野 報子・神田 明・菊地 由美  
岸 芳正・岸本 篤郎・北野千賀子  
鬼頭 秀明・絹笠 誠也・木村 郁子  
久保 修一・桑原 耕三・桑原 章吾  
月花 亮・小泉 一介  
国際ソロプチミスト 東京・葵

- 黒瀧 俊彰・小嶋 肇・小嶋 仲江  
小林 温子・小林 一雄・小林登喜子  
今野 信子・斎藤 則善・斉藤 英子  
坂井 良太・先山 隆司・桜井五十鈴  
桜井 様子・佐々木 綾・佐々木胤郎  
佐地 勉・佐藤 つや・佐藤 静子  
佐藤 芳子・佐藤 重雄・佐藤 良子  
佐藤 中・佐藤 香・佐藤 和子  
佐藤 登・澤井 寛人・設楽 誠  
志島眞理子・篠崎 松江・篠塚 裕子  
柴 昌徳・柴田仁太郎・渋川 朝子  
渋谷 昌良・嶋田 寛子・島田由美子  
清水五百子・白木善四郎・末吉 実子  
菅野 俊一・菅野 寿子・杉本 寛子  
杉山 卓哉・杉山 尚子・鈴木 秀明  
炭山 朋子・炭山 嘉伸・関 俊子  
泉水 昇・膳 恵子・千見寺ひろみ  
宗 恒雄・高木 芳夫・高槻 義夫  
高野 玄興・竹沢 修一・武田 徹  
多田 正子・多田 久人・立原 芳子  
田中 宗史・田中 園子・田中 政信  
田中 明美・棚橋 雄平・谷藤 龍正  
田原 久子・田部 秀山・塚越 実  
辻本公美子・堤 俊一郎・壺坂比路里  
豊島 久子・富岡 瑞子・富山 邦次  
富沢千代子・永井たま子・長岡 貞雄  
中川 隆子・中里 厚・中島 桂子  
中島 丈夫・中島 倫子・中島 京子  
長田 栄子・中西 隆・中野 重徳  
中野 敏江・中村 順哉・中村志津子  
中村 豊・中村 一男・中山 年子  
中山 静枝・並木 温・西井 華子

- 西沢 憲司・西平 守夫・二宮 睦治  
野上和加博・野口ケイ子・野中 杏栄  
野見山捷昭・野見山昭生・橋口 玲子  
畑 靖子・花岡嘉奈子・早川 浩市  
林 晴男・林 京子・原 まどか  
原田千鶴子・原田裕美子・原田 則雄  
原山 国秀・坂東 嫩葉・東出 祥子  
土方 淳・平田 徹・広岡 鈴子  
弘瀬 富美・深沢 規夫・福武 勝彦  
藤田ルリ子・藤野 隆子  
(株)フジミ  
船松 洋・星 北斗・堀 友之進  
本間 照子・前澤 善一・前田 澄子  
松原 龍弘・牧 昭夫・牧 三樹子  
増田 禎司・松岡 昌子・松島 英乃  
松橋 求・松原 美保・松本 知子  
水野 惇子・水野 孝子・三沢 和江  
三村 春子・宮川千鶴子・三宅 三  
宮崎 和・宮崎 信・宮本 みち  
向山 秀樹・向山 和代・向山 徳子  
村川 杏奈・森 勉・森 紘子  
森 紫珠子・森 克彦・盛川 洋一  
盛川 温子・諸岡 チカ・矢野 春雄  
矢吹 弘子・山木 茂子・山口 之利  
山崎 純一・山崎 毅樹・山科 久代  
山田 智政・山田三枝子・山出 孝子  
山村 憲・山本みどり・湯浅 玲奈  
湯川 玲子・横手 方子・横田 照衛  
吉田 友英・吉田 宏重・吉見 梓  
楽満 礼子・若月 澄子・和田 俊洋  
渡辺古都江

社会福祉法人鶴風会へご寄付者  
ご芳名(法人・団体・個人)  
平成十八年九月〜平成十八年十二月  
32名(五十音順・敬称略)

東京小児療育病院  
みどり愛育園へご寄付者ご芳名会  
平成十八年九月〜平成十八年十二月  
15名(五十音順・敬称略)

- I L B S 国際福祉協会  
永生病院・かりんの会  
社団法人日本女医会 東京都支部連合会  
日新機器(株)  
南観光交通(株)代表取締役 中沢 洋  
(株)エクセル・サービス 代表取締役  
中沢テル子  
(株)幸和義肢研究所  
板垣 紀夫・伊藤 あつ・伊藤九一郎  
伊藤 一志・小俣 晃・加藤奈津子  
清宮 祥子・黒木 達郎・小池 時史  
佐藤昭二郎・渋谷麻利子・竹内 道子  
都筑 高司・野見山捷昭・浜中智恵子  
平井 祐太・松尾 賢二・松本 誓子  
三村光太郎・森田 恵子・柳 恵子  
山田耕一郎・吉川 芳登  
絹笠 誠也・高橋 孝彦・野見山捷昭  
守田 洋・幾田 寿敏・江田 周二  
長田 和久・斉藤 雅彦・高橋 孝彦  
中里由理枝・萩原 真治・馬場 節子  
馬場 文彦・山下 順子・渡辺 晃